

1999年11月5日

通院ボランティア通信

【ゆどばたNo.4】

全腎協事務局作成

★助成金シリーズ第1段・民間助成金★

ボランティア不足の次に問題になるのが、財政難。そこで、市民団体を支援する各種助成金についての情報を探してみました。今回は、第1段として民間助成金を、次号では公的助成制度をご紹介します予定です。

<民間助成団体・最近の傾向と対策>

●民間助成団体は、企業や資産家などの財産を元にして財団を作り、その運用益を各分野の活動に助成金として分配しています。近年は、金利が低いことから、助成額を減額する団体がある一方、申請する団体は増加傾向にあるため、交付決定は狭き門です。しかし、福祉分野では、ボランティア活動や在宅福祉活動を助成する助成団体が増えているので、どちらかの分類で応募できる助成金を探してみましょう。

●NPO法(特定非営利活動促進法)が成立してから、対象を「NPO、又はNPOをめざす団体」と限定したり、「優先的に交付する」という助成団体が増えています。

●応募方法には「自薦」「〇〇の推薦」「公募」などの別があります。社協や有識者(研究者・医師等)の推薦で応募する助成金を探すと公募に比べ倍率が低くなります。そのためには日頃から社協や有識者とのつながりが必要ですが。

●助成金の申請にあたっては、提出書類の作成が大変重要です。助成団体の提示している対象分野や助成項目にあわせて記載内容を検討・調整します。対象分野が障害者福祉や高齢者福祉といった一般的な事業になっている場合、難病や透析患者は想定されていないことも多いので、申請前に助成金の趣旨や対象を問い合わせましょう。

【特徴をアピール(特記)しよう】

定期的、継続的なボランティアであること。当事者(患者)が関わって取り組んでいること。利用者は、透析患者や難病患者など通院が不可欠であること。通院できないために社会的入院を強いられている患者がいる実情。など…



<民間助成団体を探すには…>

- 県または政令市の社協に行くと、民間助成金の募集情報を提供しています。
- (財) 助成財団センターのホームページで検索できます。URLは下の通りです（出力したものを添付）。同センターは『募集要覧』『助成団体要覧』も発行しています。

URL <http://www.jfc.or.jp/index.html>

<注目の助成金>

人件費も助成

①「がんばれNPO！」プロジェクト

(財)たばこ産業弘済会と(社)日本フィランソロピー協会の共催で、今年度に始めたばかりの新しい助成金。NPOでなくとも応募できます。上限200万円。4～9月、10～3月の年2回募集で、次回の申込締切は2000年1月。事業費助成を行っている助成団体は数多くありますが、この助成金は人件費も助成対象になっています。応募には、団体としての実績が1年以上であることが必要です。県社協で申請書類を扱っています。(募集要項の一部を添付。滋賀の「ふれあい大津」が助成を受けたときのものです。)

問合せ先：「がんばれNPO！」プロジェクト 事務局（担当：佐々木）
〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-8 丸山ビル7階
(社)日本フィランソロピー協会 内
tel：03-3568-3241 fax：03-3568-3245

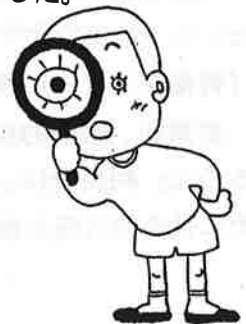
車両関係

①日本財団 ②安田火災記念財団 ③日産労連リック事業部

車両を寄贈、もしくは購入費助成をしています（添付資料参照）。

- これまでに、「ステップ福岡」が『太陽生命ひまわり厚生財団』の(備品購入費)交付を受けました。『社会福祉・医療事業団の高齢者・障害者福祉基金(地方分)』は、送迎関係でも複数の団体が(事業費)助成を受けています。
- 今後も募集中の助成金を、随時ご案内していきます。

※助成金の添付資料は、送迎実施団体のみに同封致しました。



★『つばゆきコーナー』★

五十嵐 信康 いがらしのぶやす (通院介護支援センター「さわやか通院介護」・事務局員／北海道)

当センターも活動を開始して4ヶ月が経過しました。準備段階では、先に活動された団体の資料や全腎協の「活動ガイド」が大変役立ちました。ご協力いただいた関係者の方々に感謝申し上げます。

当センターは地理的条件から12/1～3/31迄の冬期間の活動を停止します。私も患者の一人であり、患者の立場を考えれば「冬こそ利用したい」のだろうと思うのですが、「安全」を考えるとやむを得ないことなのでしょう。今後は、ボランティアの講習等、サービスの向上に向けて活動していきたいと考えています。

竹井 領吉 たけいりょうきち (ボランティアローズ会・患者会役員／広島県)

ローズ会は9月30日で11ヶ月を経過いたしました。また、この1ヶ月間に高齢者の患者さん(障害者)が増え、送迎人数40名となりました。車椅子の患者さんも5名と増えたため、以前より山陽病院辰川理事長先生に車椅子を2台積める車をご無理申し上げていましたが、新車を入れていただきまして、10月1日より送迎しております。これも理事長先生のご理解あってのことと感謝致しております。また、介助のほうも車椅子のご家族5名が協力してくださっています。先月送迎についてのアンケートを取らせていただきましたら、殆どの方が“ありがたい”“助かっています”“感謝してます”とのことでした。これからもまだ増えると思います。50～60名になると考えています(注:10月下旬で、利用者が60人を越えました)。11ヶ月前はここまで増えるとは思っていませんでした。これからもお互いに助け合って楽しく送迎車を利用していただくように心がけていきます。患者さんに優しく親切・丁寧をモットーにローズ会を運営していきます。多くなればなるほど資金調達が大変になります。

藤原 則子 ふじわらのりに (BGM運転ボランティア・事務局員／京都府)

読ませていただきながら、全国各地で頑張っておられる皆様の様子やお気持ちがお伺い、これからも楽しい通信です。

事務局があるということは、利用会員さんと運転会員さんとのつながりの原点となります。希望時間とボランティアさんの都合の難しい面がどうしても出てきます。事務局がしっかり、との思いですが、課題は運転会員さんをもっと増やすことだと思います。

私で何とかならないかと、実際ボランティアとして移送してみて、お願いする(送迎依頼する)面だけでなく、交通事情や会員さんへの接し方、細かな心を配ることも大切であると感じました。「いどばた」会報の皆様のお知恵をお借りしながら、今後も通院送迎を広めていきたいと思っています。

★ 試してみよう！ボランティア募集のいろいろ ★

—寄せられた「活動状況」から—

「今月の活動状況」を送っていただいた中から、各団体で実施されているボランティア募集のいろいろをピックアップしてみました。地域によって効果には違いがあるようですが、一度やってみてはいかがでしょうか。

- * 年2回だが、町会の回覧板で回すとボランティアが集まる。
- * スーパーマーケットや銀行、公民館など人の集まる場所に掲示をお願いしている。それを見て、主婦や退職者の方から申込みがあった。
- * 市や区の広報に募集を掲載している。記事は小さいので何度も。
- * マスコミに取材依頼をした。地元紙に掲載、地元テレビの放送後は問合せが多い。
- * 街頭でチラシを配っても、敬遠して受け取ってもらえなかった(都市部)。
- * 病院の掲示板にチラシを貼り、元気な患者さんへ呼びかけている。
(実は、患者さんでボランティアをしようと申し込んでくる人は少ないのです)
- * その他: チラシだけでなく、ポスターを作る。ボランティアセンターに団体加入し、ボラセンの登録ボランティアへの広報誌で宣伝してもらう。



東北では第1号!?

秋田県腎協(秋田市)でも、来年4月に向けて事業を準備中です。

資金調達のプロです(?)

滋賀県腎協で共同募金会と日本調教師会の援助を受け、送迎車を整備し、県で2ヵ所目となる「ふれあい草津・栗東」を12月に立ち上げる予定だそうです。

実施団体のみなさまへ

- ・次回は各団体の機関誌をご紹介します。“〇〇便り”“〇〇通信”等で最近の(あまり古くない)ものがございましたら、全腎協へ送ってください。
- ・「今月の活動状況」を送ってください。全腎協のホームページを更新する際に、いただいたデータを、随時掲載します。「いどばた」送付時に記入用紙を同封致しますので、ご記入の上、FAXまたは郵送で返送していただきますようお願いいたします。

※既にお送り頂いてるみなさまには、失礼致しました。